



株式会社エニーズ 代表取締役

**川崎 昌子 さん**  
Masako Kawasaki

大手企業で勤務を期に退職し、27歳で起業。2006年に、個人のキャリアアドバイザー事務所、ファッションをスタイリングする「キャリアリスト」という起業を立ち出し、各地の店で構成する株式会社エニーズを設立。NPO法人、女性起業家支援の会「WAG」理事長。

株式会社エニーズHP <http://www.anys.co.jp>  
キャリアリスト養成のHP「キャリアリスト ドットコム」  
<http://www.25446st.com/>



brilliant  
brilliant

自分だからできることを探す。  
それが起業家としてスタート  
するための必須条件でした。

「キャリアリストの誕生で  
女性のキャリアが守られた」

以前アパレル業を展開していた時に感じたのですが、店の販売担当の女性というのは、ある程度の年齢になると、どうしても現場を退かなければならぬことが多いんです。まったく関係のない部署に配属され、それまでのキャリアは無視され、そこでストップしてしまっ。仕事のバランスを崩した女性たちを見て、彼女たちの経験を活かすための会社を設立しようと思ひ立ちました。それが現在の会社で、キャリアクターとキャリアリストを組み合わせ「キャリアリスト」の育成をしています。キャリアリストとは、販売・接客のプロが、次のステップに上るための職業

です。例えば、情報やタレントにはスタイリストがつきますが、その考え方を一般の人にも提案するのがキャリアリスト。お客様の体型にもちろん、仕事、趣味、嗜好品の好みなどあらゆるデータをとり、分析して、そのパーソナルに合わせてオーダーメイドの服をスタイリングする仕事です。育成の第一段階としてネットを開発し、採りの手順、生地の見分け方、カラーコーディネートのノウハウ。そして、お客さま分析とについて、第一印象でどんなタイプの人なのかを分析する方法などを公開しています。ネットだけで勉強してもらいます。ネット上だけで勉強した人をキャリアリストと呼んでいます。現在、約160名の認定者がいます。

「育児の合間の不安感が  
自立を促すきっかけに」

結婚のきっかけは「子どもが1歳になった頃訪れました。親として1年間無事に育ってくれたという安堵感を感じつつ、自分は社会から取り残されているかも」という不安が出てきて、職業を持って社会と関わらなかつた、何をしようかと考えたときに「私もできたら」ではなく、「私だからできた」という仕事を望みました。子どもが犠牲になるのだから、周囲の人に自信を持って譲渡できるものかと考えたんです。まず英語に自信があったので、それを自立の第一歩に、その後いくつかあった転職を経て現在に至りますが、正業をやって自分から離れた展開ではなかったこともありました。それでも「転機はチャンス」の精神で、どんなことも人生の糧行だと思つて必死でやってきました。また不思議なことに、シングルマザーの私の周りに集まっていたのは、気がつけばシングル女性ばかり。結婚を選択肢としない、結婚したけれど今はシングルという女性です。彼女たちはとてもパワフルですが、社会のなかでは弱い立場です。そんな声を取り上げようと設立したのが、女性世界をリポートする「IWS」です。今は、さまざまな立場のシングル女性の情報をネット上で交換しており、将来的には、彼女たちと一緒に、何かしらの活動を展開できればと思っております。